

## 平成29年第4回理事会議事録

- 日 時：平成29年12月8日（金） 13:00～16:00
- 会 場：大阪大学微生物病研究所・第一会議室（本館二階）
- 出席者：堀口安彦 理事長、  
大西 真、川端重忠、川原一芳、桑野剛一、古西清司、関水久、高井伸二、  
中川一路、西川禎一、松下 治、山口博之 各理事  
大原直也 監事  
神谷 茂 学会賞および名誉会員選考委員長、  
赤池孝章 次期理事長、菊池 賢・河村好章 次期理事  
小椋義俊 先生（第91回総会代理報告者）
- 欠席者：白井睦訓、辻 孝雄、林 哲也、八木淳二 各理事  
三宅眞実 監事

※五十音順 敬称略

I. 開会（理事長挨拶）：特になし。

### II. 確認事項

前回理事会の議事録について：メールで回覧済みだが、修正等あれば事務局早瀬氏に連絡するという  
ことで、いずれの議事録も確定した。

### III. 総会報告

- 1) 第91回総会準備状況報告（林 第91回総会長）（※代理報告者：小椋義俊氏）：小椋第91回総会長代理から資料に基づき以下の報告があった。会期は、2018年3月27日（火）-3月29日（木）。会場は、福岡国際会議場。理事会・評議員会は、3月26日（月）九州大学馬出キャンパスにて開催。浅川賞受賞講演はなし。代替え企画は行わず、全体の時間を繰り上げる。経費削減のため、会場はメインホールから国際会議室（400名収容）へ変更。シンポジウム（2.5時間）（1つはMicrobial Genomics誌との共催）、12セッション。ワークショップ（2時間）、15セッション。講習会、2企画（魅力的な英語論文書き方/微生物統合データベース利用者講習会）。モーニングレクチャー、2企画（系統解析の基礎：系統樹の書き方/梅毒の増加）。ポスター発表（407演題）。ミキサー（1日目と2日目、ポスター発表の時間帯）。ICD講習会（テーマ：院内感染対策に関する諸問題を改めて考える）（3日目のWS終了後）。選抜WSの口頭発表は、発表希望数199/407演題だったが、採択可能演題数を40/199演題とした（セッションの数を増やせなかった）。選抜は、シンポジウム企画調整委員会で査読・採択（12月8日までに決定）（2人以上で一演題の審査を行う）。支援金は、寄付・助成金は、計445万円（福岡観光コンベンションビューロー 30万円、一般財団法人阪大微研 30万円、東京化学研究会 35万円、日本製薬団体連合会・大阪医薬品協会 350万円）。日本細菌学会からの補助金は、計604万円（総会開催費 300万円、演者招聘費 204万円、日韓シンポジウム補助費 150万円）。ランチョンセミナーは、3セッションを期待（1セッションのみ決定：ヤクルト本社）。企業展示は、現在3社のみ（トミーデジタルバイオ、三慶製薬、メルク）。アカデミア展示、2団体。広告、3セッションを期待。HPバナー（2社）。プログラム集（9社：PG集への広告掲載）。日韓シンポ関連（JKSM）は、シンポジウム1セッション、ワークショップ2セッション、ポスター（5演題）。JKISM関連の企画・ポスターであることがわかるように記載。宿泊費等の援助は、学会参加費を免除し、3泊分を日本側が負担（韓国側シンポの演者と座長）、渡航費補助はなし。また20-30名程度のwelcome Party的なものを予定している（細菌学会員は会費を支払う）。韓国側参加者（計17名）を若手懇親会への招待を検討中。今後のスケジュールは、12/8選抜WSの選考終了、12/15ポスター発表等の編集終了、2/2プログラム集校正・印刷、2/15事前参加登録締め切り、2/16プログラム集完成（翌週から発送）。総会長からの理事会へ：1. 会務総会に70分間を当てているが、新旧の理事会の引き継ぎの場なので、時間は十分か。また会場を国際会議室に変更したので、収容人数が400名となっているが、このサイズでよいか。2. 財政面に関して厳しい状況であり、今の状態だと赤字になると予想される。3. カジュアルスタイルでの総会参加推奨。1-3について審議した結果、理事会から異論はでなかった。

2) 第92回総会準備状況報告(山口 第92回総会長): 山口第92回総会長より以下の報告があった。まだ具体的な進展はない。その一方、何点か総会の骨格について、理事会の意見を聞きたい。会期に関しては、平成31年度3月27日-3月29日(3/26は設営準備)。会場は札幌コンベンションセンター。まず1点。今回は、ポスター演題発表者全員に口頭発表の機会を与えたい。具体的には、今回のポスター会場はかなり大きいので、プロジェクターを持ち込みスライド発表を実施したい。現在、エー・イー企画(以下、AE企画)に実際にそのようなことができるかどうか、検討を依頼し、プランを組んでもらっている。プログラム調整委員会とも調整が必要だが、選抜は事前に行わないで、まずポスター概要のスライドを用いた口頭発表(5分程度/演題)をベースに選抜し、選ばれた演題をWS(20分程度/演題)に集約し、そこで優秀な発表を決定し、副賞とともに表彰したい。参加者(特に若い参加者)は緊張感があって良いと思う。一方、選抜する側は、作業が煩雑になるので工夫が必要である。2点目は、前日の夕方、市民公開講座を開催したい。会場がとれれば北大で開催したい。またその市民公開講座の後に、予算状況にもよるが懇親の場を設けるためにもホールで一人4,000-5,000円程度の簡単な堅苦しくない立食のオープニングパーティーを開催したい。12/21にその辺りのことを含めAE企画と打ち合わせをすることになっている。

堀口理事長: 川端理事とも話をしたが、会期に関して3月の開催は、法人化するという前提でそのようになっていたかと思う。法人化しないということであれば、もう少し暖かくなってからでもいいように思うが(会期の変更)。

山口理事: もちろん検討は可能だが、キャンセル料が発生する。それでも良いということであれば、会期の変更は可能である。ただ現時点ではキャンセル料の額を把握していない。日程変更についても12/21AE企画と調整を行いたい。\*後日、手付金約42万円が戻ってこないことが判明。その後、理事会メール審議の結果、変更する場合の違約金は学会負担とし、時期の変更については、慎重に検討した上で総会長が判断することが決まった。

#### IV. 報告事項

##### 1) 総務部会報告

- ①総務・渉外担当報告(川端理事): 川端理事より資料に基づき以下の報告があった。平成29年11月22日現在の会員数は、名誉会員39名(増減なし)、正会員1,779名(-52名)、学生会員485名(-36名)、賛助会員36社(-1社)、計2,264名となっている。ここ10年会の会員数の推移からは、2014年以降大きな変動がないようにも見えるが、ジリジリと会員数は減少している。下げ止まりは見られない。
- ②広報・HP作成担当報告(中川理事): 中川理事より資料に基づき以下の報告があった。HPの階層がかなり複雑になっているので、改善する必要がある。用語集の件やカード払いもひっくるめて、次期理事会でもHPを担当させていただきたい。HPの作成言語については、WordPressに移行することになっているが(更新料金が発生せず担当者が自由に内容を更新可能となる)、脆弱性も指摘されており(外部からの攻撃を受けやすい)、中西印刷とも相談し慎重に検討を進めたい。見やすく扱いやすいので学会のアンケート調査はGoogleフォームで個人的に作って実施しているが、Googleアカウントをもっていない人は入れないといった問題がある(一方、200名程度の学会員はアンケートに答えてくれる)。他のツールとしてはSurveyMonkeyがあるが、無料で使用できるテンプレートに限界があるので、現状ではGoogleフォームを使用していくことを了承していただきたい。
- ③選挙関連担当報告(八木理事)(※代理報告: 関水理事): 八木理事に代わり関水理事から資料に基づき以下の報告があった。平成29年度の評議員選挙だが、投票率は44.2%(投票者数は選挙人数1,413名中625名)であった。前回の投票率は43.3%(投票者数は選挙人数1,488名中646名)であった。大原監事から以下の引き継ぎ事項3。今後検討が必要と思われる事項に関して追加発言があった。理事選挙では、理事を専門別の方を優先し、支部別がその次といった順位で選出することになっている。今回の選挙で専門学系で選出された理事が辞退し、次点者が既に支部別理事で当確していた(支部別理事として就任承諾書が既に提出されていた)。支部別選出のままとしたが、次点者は専門学系で選出すべきとの意見があり、検討したが、支部別選出のままとした。その辺りのこと(次点者の取り扱いについて)が選挙細則に記載されていないので、次期理事会で検討してほしい。

## 2) 財務部会報告

- ① 会費・会計担当報告 (関水理事) : 関水理事より資料に基づき以下の報告があった。中間決算である。期末には相当額の黒字となる予定である。会計理事の引き継ぎとしては、予算と収支の経過、決算が主な役割である。最も重要な点は、いかに赤字をなくしていくかということに尽きる。黒字化は、理事長主導で実施した、選挙の電子化、支部会費制度の撤廃、その他の支部支援費の減額が効果を示した。支部会費制度の撤廃に関しては会員からの異論もなく、財政健全化への会員全体の理解と協力も、黒字化を後押しした。
- ② 賛助会員担当報告 (西川理事) : 西川理事より以下の報告があった。特に付け加えることはないが、賛助会員を増やすために声かけをしたが、1年度毎の更新なのに新年度に向けた賛助会員の継続について、何ら働きかけをしてこなかった。賛助会員が脱会しないようにしてもらうためにも、仕組み作りを次期理事会にお願いしたい。

## 3) 学術部会

- ① 学術支援・評価担当報告 (林理事) : 特になし。
- ② 学術企画分野
  1. シンポジウム等企画担当報告 (西川理事) : 西川理事より、資料に基づき以下の報告があった。アンケートからは、なるべく一般演題から公募したほうが良いと言った流れとなっている。仙台の学会では、企画と総会長から提案があったシンポやWSの間を一般演題で埋めるような形になっていたが、来年春の九州の学会では、基本的に一般からどんどん選抜することになっている(公募を中心に埋めていく)。企画調整委員会は裏方に徹する。今後も九州と同じような方向で進めるとすると、どういう点に憂慮すべきか、ということを引き継ぎ書に記載した。九州の学会では199演題(選抜希望)から40題を選抜する作業がほぼ完了している。選抜はなかなか大変な作業であり、企画調整委員の選抜そのものをどのようにするのか、検討する必要があると思う。次期理事会で検討して欲しい。
  2. バイオセーフティー担当報告 (大西理事) : 大西理事より資料に基づき以下の報告があった。クラミジアとクラミドフィラの分類に関しては、まだ確認ができていない。もしクラミジア一属に統一することで問題がなければ、菌名リストを更新する必要性が生じる。また感染症法で、オウム病のところが、クラミドフィラとなっているので、訂正が必要となる。引き継ぎ事項としては、病原体等安全取扱・管理指針の改定が必要なので、担当するのであれば作業を進めていきたい。
  3. ICD 制度協議会等担当報告 (桑野理事) : 今年度は、細菌学会から二人申請があり、資格等検証したところ、問題がないということで、協議会に申請書を提出した。引き継ぎ事項としては、ICD 制度の質保証のために細菌学会を含むワーキンググループを作ることになっているので、次年度はWGへの参加が求められることになる。
- ③ 学術交流分野
  1. 日本微生物学連盟担当報告 (川原理事) : 川原理事より資料に基づき以下の報告があった。第20回日本微生物学連盟理事会(2017年9月25日、14:30~15:30)(日本学術会議 総合微生物科学分科会・IUMS 分科会・病原体学分科会合同会議) 会議内容。
  2. 総合微生物科学分科会 提言「学術研究の円滑な推進のための名古屋議定書批准に伴う措置について」をまとめ、各省庁大臣宛に要請書を提出(日本学術会議からの提言も提出)。産業界から色々なものの権利が主張されると大変なことになるので、日本政府は慎重に進めて欲しいといった立ち位置である。高校や中学で病原微生物に関する教育をもう少し熱心にやってもらった方がいいだろうということで、学術会議から提言書が用意されている。「我が国における微生物・病原体に関する教育リテラシー」(案)の作成が進行中。初等・中等教育については、各学会から意見を聴取することになっている。環境微生物学会の小暮先生が中心になって日本微生物学連盟主催フォーラム「微生物: 変わり者たちの素顔」(2017.12.16)が開催される(東大駒場キャンパス)。複数の学会からの提案として細菌学会からもぜひフォーラムを企画して欲しいとの要望があった。細菌学会も存在感を示すためには、ウイルス学会などと共同で企画を提案した方がよい。各学会の説明をすることになっている。いずれ細菌学会の順番がくると思う。IUMS に関しては、中川理事が IUMS 理事に選出された。環境微生物系学会合同大会 2017 につ

いて。小暮先生より、8月21日～31日に開催された合同学会について報告があった。

3. 日本学術会議担当報告（川原理事）：上記に含む。
4. 日本医学会連合担当報告（辻理事）：特になし。
5. 予防接種推進専門協議会担当報告（大西理事）：特になし。大西理事より引き継ぎ事項について以下の説明があった。本協議会は（2月に1回程度協議会が開催）、ワクチン製剤に対する国に対する要望を関連学会が集まり、まとめて協議する役割を担う。細菌学会としてはこれまで大きく関与はしてきていない。

#### 4) 教育部会報告

- ①次世代教育・人材育成担当報告（松下理事）：松下理事より引き継ぎ書に沿って以下の説明があった。短期的には会員確保、中期的には人材養成、長期的には、初等中等教育を通じて社会の公器として信任を確保する。二つの大きな柱があり、出張公演と「細菌学若手コロッセウム」。出張公演は、多年に渡り千葉大学の野田先生が実施してきている。堀口理事会では、初年度は財務的な理由から、支援はできなかった。その後、財政に一定の目処がついたことから、2年目と3年目には年間15万円の予算措置がとられた。2017年の活動内容（野田先生からの報告）は、18校で実施、受講学生は3,673名であった。今後、出張公演をどのように継続していくのか検討が必要である（野田先生お一人に頼ってはいられない）。そのために、どのような形態が良いのか（段々と色々な会員が出張公演に関わるようにするための仕組みづくり）、会員の教育に関するインバウンド・アウトバウンドの活動状況に関するアンケート調査を実施した。いずれの支部でもインバウンド・アウトバウンドを問わずバランス良く実施していた（北海道支部は若干少ない）。アンケート内容を踏まえた仕組み作りは、次期理事会での検討事項。細菌学若手コロッセウム（いずれの学会からも独立した学術集会）は、単なるイベントなので事務局や規約は存在しない。従って恒常的に存在する組織体ではない。これまでに10回以上開催されている。細菌学会は支援（1回30万円）を行なっている。これが次世代教育人材育成の一環である。その支援に対するフィードバックとして冠シンポジウムを総会で実施している。2018年度は、松下理事と大原監事が共同世話人として、岡山で開催することが決まっている（「細菌学若手コロッセウム in OKAYAMA 2018 世話人グループ」2018.8.23-25）。
- ②教育資源発掘・保存担当（松下理事）：松下理事より以下の説明があった。教育用のDVDを完成させ、業者への支払いが完了した。

#### 5) 出版部会報告

- ①学会誌担当報告（大西理事）：大西理事より引き継ぎ書に沿って以下の説明があった。この3年間は、日本細菌学会誌への、特に受賞論文の刊行を行ってきた。受賞論文以外の論文掲載について（どのように増やすのか）、次期理事会では検討して欲しい。
- ②MI誌担当報告（川端理事）：川端理事より資料に基づき以下の説明があった。来年1月1日よりMI編集委員メンバー（9名）が交代する。本委員会の役割は、MI誌への投稿論文の諾否の決定、MI誌のIFの向上、MI誌の出版費の低減。IFは1.2から1.7に向上。出版費用の分担は、日本細菌学会：日本ウイルス学会：生体防御学会=5:4:1の割合だったが、4.5:4.5:1となった。ワイリーと交渉した結果、ロイヤリティの増額が決まり、これまで150-170万円/年間であった負担額が100万円程度の削減となり、実質40-50万円に圧縮することができた。オープンアクセス費用については現在交渉を進めている（現在22万程度だが15万円程度に減額させたい）。一方、総説の集まりが極めて悪い。浅川賞と小林六造記念賞受賞者に依頼をしているが、半数程度は断られる。投稿規程に「MI誌あるいは日本細菌学雑誌」とあるので、この辺りの規約改正が必要である。
- ③用語集担当報告（八木理事）（※代理報告：川原理事）：八木理事の代わりに川原理事より引き継ぎ書に基づき以下の説明があった。微生物用語集を冊子体からweb版に変更。試用期間で得られた意見を踏まえ改善していきたい。

#### 6) 国際交流部会報告

- ① IUMS等担当報告（古西理事）：小西理事より引き継ぎ書に沿って以下の説明があった。次回のIUMSの会議が2020.10.11-16まで韓国のDaejeonで開催が予定されている。今までと同様に、出席を細菌学会の会員にすべて任せるのか、それとももっと積極的に取り組むのかを検討する必要がある。
- ②日韓微生物等担当報告（桑野理事）：桑野理事より引き継ぎ書に沿って以下の説明があった。本シンポジウムの開催に要する費用や成果などの観点から、本理事会で開催意義を問う意見が出たが、正式な

議題としての議論には至っていない。今後、開催意義などを検証すべきである。

## 7) 社会交流部会

①利益相反担当報告（辻 理事）：報告事項なし

②倫理担当報告（白井理事）：報告事項なし

**8) 学会賞および名誉会員選考委員会報告（協議事項にて報告兼）**：神谷学会賞選考委員長より資料に基づき各選考経過に関して以下の説明があった。平成 29 年 11 月 7 日に平成 29 年学会賞選考委員会を開催した。浅川賞、小林六造記念賞、黒屋奨学賞にそれぞれ 1 名、2 名、4 名の応募があった。これらの応募者の研究業績、会員資格、学会への参加状況・貢献度などについて、林理事(学術部会評価分野)主導のもと理事会で協議・決定した選考基準の申し合わせに沿って検討・審議した結果、浅川賞と小林六造記念賞は該当者なし、黒屋奨学賞は、安藤弘樹氏と野澤孝志氏が相応しいとの結論に至った。審議の結果、承認された。

## V. 審議事項

1) **新名誉会員および学会賞の選考結果について**：神谷名誉会員選考委員会委員長より資料に基づき以下の説明があった。応募者 1 名(熊沢義雄氏)について、研究業績、学会への貢献度などをメール会議にて評価した。候補者は、1968 年から 2008 年まで 41 年間、北里研究所、北里大学薬学部、北里大学理学部にて細菌菌体成分の免疫系への作用および炎症反応の制御作用を有する天然物の働きに関する研究に従事した。また 46 年間の本会入会歴があり、監事 1 期、評議員を 12 期務め、本学会の運営に多大な貢献をした。よって全会一致で新名誉会員に相応しいという結論に至った。審議の結果、熊沢義雄氏を名誉会員とすることが了承された。

2) **法人化について**：堀口理事長より資料に基づき、以下の説明があった。法人化検討委員会(理事会メンバーがそのまま構成員となる)で意見をまとめ、評議員会や一般会員へ文章で説明することになっていた。当初決めたことは平成 30 年度の評議員会と総会に検討結果を諮るということであった。前回の理事会で、ワーキンググループと理事会の意見をまとめ、アナウンスすることが決まっていた。その内容を今月中に HP に掲載し、メーリングリストでも配信して、会員の意見(一般会員からフィードバック)を聴取した上で、来年 3 月の評議員会と理事会に諮る。ワーキンググループとしては、現状では法人化は難しいという結論に至っている。この内容に関しては、すでに持ち回りで審議済みとなっている。審議の結果、了承された。

3) **次期執行部への引き継ぎ事項について**：堀口理事長から以下の説明があった。赤池次期理事長(次期執行部)への引き継ぎ事項は、各報告事項をする際に、引き継ぎ書に従って説明して欲しい。理事会引き継ぎ書内容、特に 1)H27-H29 年度における理事会の活動は、すべて議事録に記載されている内容である。ポイントは 6。(支部会費の徴収廃止と支部活動に応じた支援)となる。支部会費の徴収を廃止する一方で、支部からの申請により、支部活動内容を精査した上で、支部支援費を支出することになった。平成 29 年度は、総額上限 120 万円として、関東支部、関西支部を除く財政状況の厳しい北海道、東北、中部、中国・四国、九州支部に配分した。2)今後検討が必要と思われる事項(経緯/理由を含む)は、1. ホームページのリメイクと 2. 海外会員の区分を設定(会費 5,000 円/年)。入会時の会費納入については、全て連動化させ、カード払いができるようにしている。若コロについては、余剰金の扱いについて透明性をもって管理できるようにして欲しい。各部会の引き継ぎ内容は各報告事項内容に含む。

4) **平成 30 年度予算について**：関水理事より資料に基づき以下の説明があった。支出区分を切り詰め赤字予算になっていないことを強調したい。早瀬氏から以下の追加発言があった。前回の理事会で総会の準備費とシンポジウム関係費が 15%削減されることが決まっていた。それに伴い、総会費は 255 万円、シンポジウム関係費は 204 万円となっている。日韓シンポは 50%減額することになっていたため、それに合わせ 150 万円となっている。役員選挙はないので、選挙関連費は 150 万円の減額(予算額 10 万円)となっている。審議の結果、本予算案が承認された。

5) **用語集の Web 版掲載について**：八木理事に代わり川原理事より資料に基づき以下の説明があった。用語集と便覧がほぼ完成した。南山堂から提示されたスケジュールでは、11 月下旬までに、HP 掲載の検証と

修正作業(南山堂と中西印刷が実施)。12月中旬までに、用語委員会でその内容を確認。用語委員会で承認後、1週間程度でHPに掲載。現在用語委員会での確認作業が進行中である。すぐにでもHPへ掲載可能だが、公開にあたり、一般公開あるいは会員限定にするのか、本理事会で決めて欲しい。南山堂の意見としては、「学会の著作物であること、著作権侵害の可能性などを考えると、会員限定が適切かと考えますが、閲覧する皆様にパスワード等をお知らせする必要があります」(この意見に関して用語委員会からの反論はなかった)。会員限定の場合には、関連学会にも働きかけ菌株のリストを維持管理するのが望ましいかもしれない(毎年新しい何百もの菌種が出てくるのでリストは微生物資源学会・日本感染症学会・日本臨床微生物学会が共同でルールを作って管理する\*江崎先生の提案)。用語委員会での確認作業で、便覧の最初の部分が、アーキアバクテリアとプロカリオテからなるKingdom(界)となっている。現在、16SrRNAの配列が明らかになってからは、アーキアとバクテリア(真正細菌)からなる二つのドメインが上位に位置する。そこでトップをドメインに変更したい。この件についても審議して欲しい。堀口理事長：菌名リストの維持管理に関しては、関連学会との兼ね合いもあることから継続審議としたい。便覧の記載項目トップをドメインに変更することが了承された。閲覧に関しては、会員限定(アクセスについては会員番号をパスワードとする方向で検討)で閲覧できるように試運用としてスタートすることが決まった。試運転するにあたり、HP上の技術的な問題点は、中川理事が解決に当たることも決まった。

**6) 本会学会誌への投稿希望について：**大西理事より資料に基づき以下の説明があった。学会員から、他学会ワークショップの発表内容を日本細菌学雑誌かMI誌に掲載してもらえないかとの相談が寄せられている。理事会の意見を聞いた上で判断したい。審議の結果、純粋な総説(冠なし)なら、査読を前提として受けることができるという方向で、次期理事会で検討することになった。

#### **7) 本会総会の運営会社複数年契約について (AE 企画)**

AE企画より、総会のコンベンション業務委託を複数年契約することについて本会側に提案がなされ、同社の内田氏より、単年度契約とするよりも業務委託費のディスカウントが可能になることがメリットとして説明がなされた。協議の結果、実際にメリットがあるかどうかの判断が難しいことから、改めて説明の場を設けた上で、継続審議することとなった。

**8) 日本細菌学会と口腔保健協会の平成29年事務委託契約について：**早瀬氏より資料に基づき、以下の説明があった。委託料は学会の会員数に基づいて算出をしている。月額290,000円[296,000円(消費税込)]、年額3,480,000円(3,552,000円)。審議の結果、委託契約が了承された。

## **VI. その他**

### **VII. 閉会**

堀口理事長：無事脱線することなく、なんとかここまでやってこられた。理事の皆様のご協力の賜物であり、感謝している。今後とも引き続き細菌学会のために尽力して欲しい。

赤池次期理事長：財政状況が改善し、会員数が減少したとしても普通にやっていけば、健全な学会運営ができるものと思っている。さらにこれを改善させ、できれば法人化して事業展開をすることで、もっと安定した財務運用になるようにと考えている。そのためには色々な知恵を拝借する必要がある。お金ばかり考えると学問が疎かになるので、その辺りのバランスを良く考えながら舵取りを行っていききたい。